

## 平成 29 年度 事業報告

### (1) 開所について

#### 年間開所日数

就労継続支援B型 256日 生活介護 261日

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
就労継続支援B型	21	22	22	21	23	22	23
生活介護	22	22	22	22	23	22	23
月度	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
就労継続支援B型	21	19	20	20	22	256	
生活介護	21	21	22	19	22	261	

### (2) 利用者について

多機能型事業所 定員 30名 現員 31名

就労継続支援B型 定員 20名 工房 14名 喫茶 6名

#### (新規利用者)

- ・(4月) 2名 (在宅1名、特別支援学校1名)
- ・(6月) 1名 (在宅1名)
- ・(9月) 3名 (企業退職者1名、在宅1名、事業所移籍1名)
- ・生活を支える社会適応能力や自立性を高め、日常生活に対する意欲と自信が持てるよう、モニタリングなどを通じて利用者本人や家族からの意向、相談に応じた。また、特別開所を通じた運動支援・余暇支援への参加により、生活の質の向上等を図った。
- ・工房に於いては、利用人数に対してトイレ、手洗い場等が不足、不便をかけているが利用者間のトラブルを回避すべく、支援員が利用者への配慮を徹底することで不便な状態にも慣れ作業に集中できている。
- ・新規利用希望があっても、活動場所が手狭となっていることから、受け入れが難しい状況であった。今後も現在の施設環境では、工房での新規の受け入れは難しい。喫茶においては、人員配置などを検討の上、受け入れは可能である。

#### (就労支援)

- ・工房では、下請け作業の作業種を増やし、利用者の力や集中力に合わせて作業を選択できるようにした。施設外の作業として、除草作業、ヒバリヤ・資源回収を取入れ、利用者本人の意向に沿いながら、積極的に取り組み就労に繋げていくよう努めた。
- ・喫茶では、就業・生活支援センターとの共同で就労へ向かうための知識、技術の習得の機会を設け、就労意欲を高めるよう努めた。

### (生活支援)

- ・毎日の挨拶、当番活動、作業を通じ、円滑な人間関係の確立、協調性を養えるよう努めた。また、各種行事を実施し、社会経験を広げた。土曜日の特別開所では、余暇支援、運動支援を中心に活動を行った。

### 生活介護 定員 10名 現員 11名

#### (利用者状況)

- ・本人（女性1名）の意向で、体験、実習期間を経て、就労継続支援B型事業へ移行した。
- ・安定して活動できる環境を提供することや利用者の個々の意向を活動に反映させることなど、現状の施設環境では、すべてに対応することは難しかった。
- ・利用者の意向に沿った活動を行うスペース、部屋数の不足により利用者に不便をかけている。その為、新規利用者の受け入れが難しく実習などの受け入れも容易でない状況であった。

#### (生活について)

- ・利用者本人や家族からの健康に対する不安等の意向に沿って健康管理として通所時に、体重、体温等を確認、体調を聞き取り記録する。毎月、嘱託医、看護師による健康相談を利用者本人に行った。家族やヘルパー、医療機関と、連携を取り体調や家庭での様子を共有し活動に活かした。運動支援は運動不足による機能低下や病気を防ぐべく、ウォーキングや体操を行い定期的に講師によるヨガなどの活動なども取り入れた。

### (3) 作業について

#### 就労継続支援B型

(目標工賃 12,000円) 実績 13,334円 (28年度平均工賃 9,832円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
工賃総額	175,984	190,335	182,984	340,951	170,690	187,914
対象者数	15	16	17	17	18	18
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
199,643	220,409	374,339	218,436	200,895	457,751	2,920,331
18	20	20	20	20	20	219

\*工賃アップに向けて、下請け作業、施設外作業、喫茶営業へ取り組んだ。

#### (下請け作業)

- ・利用者増、作業熟練度の向上により、昨年並みの作業受注量では不足気味だった為、作業の受注を増やすことで対応。協力事業所に協力をお願いし資材や作業種を増やして頂いた。
- ・焼津市内同事業所のネットワークによる共同での請負に積極的に取り組み、保健所からの作業を共有、分担して請け負った。

#### (施設外作業)

- ・除草作業、静岡労働局、焼津警察署、個人宅より依頼を請負った。
- ・資源回収（ヒバリヤ、エコプラザ）は、週2回を継続するが、小土店における瓶の回収、三ツ合店での集客の減少など、課題も多かった。

#### 喫茶、野いちごの営業

- ・売上げ実績は、月度により波はあるが、ほぼ昨年並みで推移しました。
- ・出張販売は毎週金曜日昼食時に、特別支援学校焼津分校、市役所（アトレ）での販売を継続。
- ・ほほえみ祭り、ふれあい広場等に積極的に取り組み地域交流を行った。
- ・厨房機器など、店舗の様々なものが老朽化による故障があった。  
今後、修理や買換えとなると高額な費用の捻出を視野に入れておかねばならない。

#### (自主製品)

- ・コーヒー、紅茶の生産、販売を継続。販路として、催事などへの積極的な参加、各協議会景品等の受注に積極的に取り組み、遊技業組合、焼津市役所、オールしずおか、青年学級などから注文を頂く。
- ・静岡県作業所連合会「みんなのお店、わ」静岡県総合社会福祉会館シズウエル1階「ともの店」の販売を継続。季節ごとのイベント時に販売促進のための工夫を行った。

#### 生活介護

月一人当たり平均工賃 4,316円（28年度平均工賃 5,573円）

#### 作業について

- ・日課として、様々な活動の中に下請け作業に集中する時間を設けた。
- ・下請け作業の製品納入、資材搬出などを行った。
- ・定期的に各家庭や協力企業を回り資源回収を行いエコプラザや回収業者へ持ち込んだ。

#### (4) 就労支援について

##### 就労継続支援B型

- ・障害者就業・生活支援センター「ぼらんち」の活用を試みるが現段階では難しい。  
就労準備が完全に整わないと利用に繋がらない。
- ・ハローワークを活用、登録と共に情報を収集。
- ・モニタリングで、利用者の就労意向を確認して、計画的に支援していく。
- ・喫茶においては、就労支援事業所との共同で面接、就職の心得などの就労へ繋げる訓練を実施した。

## (5) 年間行事

- ・蓮華寺池公園まで歩こう。健康づくり（運動支援）
- ・社会体験活動「日帰りバス旅行」横浜赤レンガ倉庫、ズーラシア動物園
- ・ほほえみ祭り、喫茶を中心に出店（サンドイッチ、コーヒー）
- ・ふれあい広場に、喫茶営業にて参加。
- ・ふれあいレクリエーションへの参加。
- ・クリスマス会、新年顔合わせ会（ボウリング大会）を共同募金助成事業として行うことができなくなり、内容を大幅に変更した。

## (6) 職員研修

### 施設内研修

- ・就労継続支援B型、生活介護それぞれで情報交換を含めた各連絡会を実施（月1回）
- ・就労継続支援B型、生活介護、全体での連絡会を実施（月1回）
- ・連絡会を通して、月度計画の確認、行事等の反省、利用者の状況、施設外の各研修、会議等の報告や意見交換を行なった。  
方向性を明確にして、計画的な啓発、研修を行うために、研修担当者を配置していく。

### 外部研修

- ・相談支援従事者研修
- ・サービス管理責任者研修
- ・静岡県作業所連合会、施設長研修
- ・共同生活援助研修会

## (7) 防災について

- ・避難訓練(月1回)／防災設備点検を実施  
防災計画の見直しを行った。  
防災用品の準備、非常食の備蓄など、経費面などの検討の必要がある。  
職員、利用者とも防災の意識が低くなっている、実施内容もマンネリ化してしまっている。今後は、職員の意識を高めると共に、訓練内容に変化を持たせ利用者にも興味を持っていただけるような取り組みを検討していく。

## (8) その他

- ・静岡放送文化福祉事業団「愛の都市訪問」事務局から「除草機材一式」が寄贈されました。
- ・公益財団法人 星いきいき社会福祉財団より、「喫茶ユニフォーム」を寄贈されました。
- ・ホンダ販売労働組合、ホンダカーズ静岡西支部より、「倉庫、エアコン等」を寄贈されました。

「大切に使用させていただきます。ありがとうございました。」